

北社会ニュース100号

2014年3月17日

発行者：鈴木壮夫

(1) 3月17日(月)開催 第318回 北社会

講師：和賀井敏夫氏 (旧制二中42回卒) 超音波診断の創始者、そして石巻名誉市民

テーマ：「東日本大震災から三年、故郷の被害を忘れるな！！」

東日本大震災から三年が経過した直後、和賀井先生からメールをいただきました。次のような文章でした。

「3月11日、東日本大震災三周年、石巻犠牲者追悼式に出席、翌日は各種復興会議に出席しました。年令のせいか体調が思わしくなく、何とか大任を果たしたものの、疲れしました。でも、市長、市の幹部、親戚の皆様には喜んでもらいました。

でも、悲痛極まりない石巻追悼式の雰囲気と何事もなかったような東京の平和な生活との余りにも大きな落差に呆然としています。」

3月11日の前々日から新聞やテレビで大震災三周年の特集が報道されました。私も毎日新聞を何回も何回も読み返しました。そして、三年前のあの日のことを何回も鮮明に思い出しておりました。当日、14時46分には黙祷し、犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈り致しました。でも、上記の和賀井先生が書かれておられた“悲痛極まりない”状況に陥ることはなかったのです。当日新聞各紙に宮城県の一面公告が掲載されていました。「感謝と復興途上」というタイトルで宮城は復興の道程を一步、一步進んでいます。本格的な復興は緒に就いたばかりです。どうぞ、宮城を訪れ、復興の歩みを見守って下さい。頑張っ

て欲しいと強く思いました。本日の和賀井先生のご報告を素直にお聞きして、故郷のために何をしたらよいのかあらためて思いなおし努力していく覚悟です。

和賀井先生は1924年のお生まれです。今年、90才です。

旧制二中時代の生活を知りたくなり、百周年記念誌を読みました。和賀井先生は入学が昭和12年(1937年)で卒業は昭和17年(1942年)、同期生は213名。当時は戦時体制下。「鍛練せられた心身の総力は学力と一致する」という目標を持って授業を強化し、勤労教育を施し学校の錬成をはかった。校内整備作業は日課のように行なわれ、正門から玄関前まで、グラウンドに通じる中央坂道や東西の階段等を敷石とコンクリートで舗装し、校庭周囲の土手も石垣も整備するなど師弟協同の勤労作業を実現した。以上を拝読、幸せだった在校当時をしばしば思い出しておりました。

(2) 来月以降の北社会

日中、日韓 との関係がぎくしゃくしております。このテーマを講演できる同窓生をぜひご紹介いただきたいのです。よろしくお願い致します。